

古文の魅力を小学6年生に伝えよう

教材：「竹取物語」「枕草子」「徒然草」「平家物語」「おくのほそ道」他（光村図書）

近年、小学校でも「春はあけぼの」や「祇園精舎」といった有名な古文の冒頭の音読など、子どもたちにとって古文がより身近なものになっています。

そこで、これから古文を本格的に学習する小学6年生に向けて、
中学校三年間で学習した古文で印象に残った作品や、
その魅力を伝えるはがき新聞を作ります。



指導のねらい

- ・古典の魅力をとらえ、古典の一節を引用するなどして使う。【知・技(3)イ】
- ・目的や相手に応じた表現になっているかを確認して、文章全体を整える。【思・判・表(1)エ】



評価の例

- ・古典の魅力を理解し、適切な古典の一節を引用している。【知・技】
 - ・目的や相手意識をもって記事を書いている。【思・判・表】
 - ・粘り強く、学習の見通しをもって新聞にまとめようとしている。【態】
- これらの観点について、「よくできている」：A、「概ねできている」：B、「十分でない」：C、で評価します。事前に評価の観点を示し、学習者に意識付けをさせるといいでしょう。

- ① 導入（課題の説明）・・・5分
- ② はがき新聞の作り方の説明・・・5分
- ③ はがき新聞の作成・・・35分
 - (1) トップ、セカンド、サードの三つの記事に分け、それぞれに適切な見出しをつけます。
 - (2) 適宜、イラストを描いたり、強調するところに色を使って書くといいでしょう。
- ④ 振り返り・交流・・・5分
 どんなどころを工夫したか、小学生に読んでほしいポイントを小グループで交流します。



時間配分
(目安)

学びを広げるポイント

- 作成したはがき新聞は、ミテミテ（理想教育財団助成品）に入れて小学校の教室に掲示したり、冊子にまとめて小学生に配布したりするといいですね。
- 小中連携の教科間連携にするのも一つです。
- 中学3年生を対象としていますので、中学校三年間で学習した古典について仲間とふり返り、それらの魅力を確認したり、再発見したりする機会となることが期待できます。



財団法人 理想教育財団

古文の魅力を小学6年生に伝えよう

これから古文を本格的に学習する小学6年生に向けて、
中学校三年間で学習した古文で印象に残った作品や、
その魅力を伝えるはがき新聞を作りましょう。



教材：「竹取物語」「枕草子」「徒然草」「平家物語」「おくのほそ道」他（光村図書）

小学生にあなたが魅力を伝えたい古文を一つ選びます。その作品の「どんなところが面白い」「共感できる場所」「今とは価値観が違うところ」などをあげてみましょう。原文も雰囲気伝えるのに、少し引用すると効果的です。そして、作品が書かれた時代やどんな人によって書かれたのか、エピソードも含めて、ポイントを押さえて書きます。小学生が興味関心をもてるような内容を考えましょう。

はがき新聞の作り方



- 1 例を参考にして、はがき新聞のレイアウトを決めましょう。
- 2 枠に定規を使って線を引きましょう。
- 3 発行者の欄に名前を書きましょう。
(名前は横書きです)
- 4 書く内容を三つに絞り、トップ記事、セカンド記事、サード記事を決めましょう。
- 5 それぞれの記事に「見出し」をつけましょう。
- 6 トップ記事から順に流していきましょう。文末は「です・ます」(敬体)、もしくは「だ・である」(常体)のどちらかで統一しましょう。
- 7 本文の引用箇所には、「
」をつけましょう。
- 8 適宜イラストを描くといいでしょう。
- 9 推敲し、新聞の「題字」をつけましょう。
- 10 文章やイラストが書けたら、色を塗って完成させます。

準備するもの

鉛筆(下書き用)、消しゴム、ボールペン(黒色)、色鉛筆、定規など



財団法人 理想教育財団